

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書 令和6年 4月 17日 千葉県知事 熊谷 俊人 殿 提出者 住 所 千葉県山武郡横芝光町宮川6058-5 氏 名 ゼンミ食品株式会社 代表取締役社長 宗 哲治 電話番号 0479-85-0627 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	ゼンミ食品株式会社
事業場の所在地	千葉県山武郡横芝光町宮川6058-5
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：食料品製造業 小分類：その他の調味料製造業
②事業の規模	前年度の製造品出荷額 955百万円
③従業員数	46名（正社員37名、派遣7名、アルバイト2名）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	廃水 → 廃水処理 加圧浮上処理 活性汚泥法 → 脱水 → 排水 → 河川放流 汚泥 → 発酵 → 肥料 植物残渣 → 発酵 動物残渣 → 焼却 → セメント用Ca

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 社 長 統括責任者 生産管理 工務課 処理計画作成部署 廃棄物担当部署（汚泥） 製造部 1 課 2 課 廃棄物担当部署（動植物残渣）			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物残渣	汚泥
	排 出 量	1,201 t	134 t
	（これまでに実施した取組） 植物残渣を産廃として排出し、肥料原料としている 汚泥を産廃として排出し、肥料原料としている		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物残渣	汚泥
	排 出 量	1,201 t	134 t
	（今後実施する予定の取組） 上記取り組みを継続して実施する		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動物性残渣、植物性残渣、汚泥に分別を実施		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動物性残渣、植物性残渣、汚泥に分別を実施		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥
	全 処 理 委 託 量	1, 201 t	134 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	8 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1, 201 t	126 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	汚泥：「産廃として排出し肥料原料」を継続し、今後も継続予定 植物性残渣： 同上 動物性残渣：BSE関連規制で飼料化が不可能な為、産廃として排出 セメント用Caとして活用		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物残渣	汚泥
	全 処 理 委 託 量	1, 201 t	134 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	8 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1, 201 t	126 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	これまでの取り組みを継続して実施		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。